



やまぼうし

(2005年7月8日 撮影)

もり しんりょく こ みどり か がつはじ
森が新緑から濃い緑に変わりつつある7月初
め。お つ みどりいろ なか しろ いろ み
落ち着いた緑色の中に、白い色を見つける
ことがあります。

ちか き しろ
近づいてみると、やまぼうしの木についた白い4
まい そうほう しろ ぶぶん はな
枚の「総苞」です。この白い部分は花びらではなく、
はな ささ つ ね い
花を支える付け根のようなもの。タンポポで言えば
はな したかわ ぶぶん
花のすぐ下側の部分みたいなものです。

なまえ ゆらい そうほう ま なか まる はな
名前の由来は、この総苞の真ん中にある丸い花を
ぼうすあたま しろ そうほう すきん み た きょうと ひえい
坊主頭に、白い総苞を頭巾に見立てて、「京都の比叡
さんえんりやくじ ぼう やまぼうし み
山延暦寺のお坊さん(=山法師)に見えるから」と
つけられました。「むさしぼうべんけい おも だ
武蔵坊弁慶さん」を思い出してみ
ると、わかりやすいかもしれません。



白い部分は花の付け根で、中央の
小さく丸い部分が花です。